平成２９年度　政務活動費　先進都市調査報告書

会派名	新緑会
議員名	早坂　博　　羽立　秀光
調査実施年月日	平成３０年２月１６日（金）
調査先　自治体名等	大阪府高石市
調査項目	防災機能を備えた総合体育館について
調査目的	防災機能を備えた総合体育館について
報告内容 実施したこと	１　視察先（市町村）の概要 人口：５６，５２９人　行政面積：１１．３０ｋ㎡ ２　視察内容 ・防災機能を備えた総合体育館について ・
感想（まとめ） 本市へ生かせること等	平成２４年→度耐震二次診断及び実施計画を行う 平成２５年→耐震改修工事を実施 ・健康（スポーツの拠点）と安心（防災拠点施設）を両立 多目的広場のある都市計画公園の中に、公式競技大会が可能な広さをアリーナ、柔剣道場として利用できる多目的室やダンス教室が可能な軽運動室など、様々なスポーツ空間を持つ体育館として整備し、公園と一体となった施設を目指し、計画をした。体育館の特徴は、利用率の高い施設となるように、アスリートまで対応するトレーニング室を設け、様々なプログラムが提供できるように大きな空間を区切って使えるように工夫している。また、広域避難所に指定されている公園内の体育館であるため、全てのライフラインが断絶された場合を想定し、災害発生３日間は対応できるように整備し、帰宅困難者への配慮もされた防災拠点としての機能も充実している。 【主な機能】 ①かまどベンチ 人が腰掛けるだけでなく、板状の座面の下に災害発生時の炊き出しに使うかまどの機能を兼ね備えたベンチを５基備えている。震災を教訓に全国に普及しており、自治体の公園だけでなく、民間のマンションの敷地や宅地分譲地に設けられる例も増えている。 ②大型自家発電機 軽油を燃料とする自家発電設備を設置しており、ライフラインが復旧するまでの電力として活用する。出力は１５０KVA であり、９５０リットルの燃料タンクを併設しているので、体育館の照明や空調等の電気設備を最大で使用した場合、約４０時間稼働させることができる。

	③LP ガス接続装置 この体育館のアリーナや本館の大型空調室外機はコスト比較の結果、電気ではなく都市ガスで稼働する設備を選定している。しかしながら電力同様、都市ガスも大規模地震の際には短期間の供給停止が生じる恐れがあり、そのため供給停止中でも稼働可能とするために、LP ガスボンベを代替燃料として使用できる特別な措置を整備している。災害時には、LP ガス取扱店等から LP ガスを調達する協力関係を構築している。 ④マンホールトイレ 災害時に下水管道路にあるマンホールの上に、簡易なトイレ設備を設け使用する。大地震などにより甚大な被害を被った被災地において、「避難場所」で問題となったトラブル上位に「トイレ」の問題が挙げられている。この総合体育館には２０基備えられている。 ⑤災害用備蓄倉庫 この総合体育館には、災害時に避難される方々のために災害用備蓄倉庫を備えている。大地震、津波、地震火災等の様々な災害時には広域避難地である鴨公園へ多くの市民が避難してくることが想定され、避難者のための水、食料、毛布、医薬品、ガスボンベ式発電機、バルーン型照明、マンホールトイレキット等、災害用備蓄品を備蓄している。 ⑥災害時シャワー 本館棟の２階にある休憩コーナーは、災害時にはシャワールームとして活用する。扉を開けると５基のシャワー設備が出現する。 《感想》 災害時の活動拠点として色々な機能が整備されており、特に震災時に必要なトイレや水、食糧、毛布等の確保ができる最新設備は大変参考になった。 体育館は様々な競技に対応可能となっているが、長期的な避難所が必要となるような大規模災害時には、支援物資等の集配拠点としても使え、幅広く活用できていることに大変感心した。 地下には１５０トンも雨水貯留槽を設置しており、体育館の屋根に降った雨を全部一旦この貯留槽に流入させることで、豪雨時に河川へと一気に流出するのを抑制します。また、溜めた雨水の一部を別の槽に移し、消毒処理をしてトイレの洗浄水として活用する。さらに、災害時にはマンホールトイレの汚物流下用水として活用する。